

【Kyoto University Design Symposium Series】

The Second Design Symposium on Conservation of Ecosystem(SEASTAR2000)の 開催報告

三田村 啓理
京都大学大学院 情報学研究科

絶滅危惧種である魚類、海産哺乳動物、ウミガメ類などの保護ならびに生物多様性の保全のために、それぞれの国に応じた生態系保護のデザインを提案し、対策を講じるための専門的な知識を有するリーダーが求められている。このため、バイオリギング、安定同位体比分析など先進的な手法を用いた生態系の保護のデザインを構築するための議論を行い、リーダーに求められる要件などを明らかとすることを目的に、京都大学デザイン学大学院連携プログラムのデザインシリーズのシンポジウムとして、昨年度に続き、**The Second Design Symposium on Conservation of Ecosystem(SEASTAR2000)**を京都大学時計台記念館で2014年3月18～19日に開催した。18日は陸域および海洋生態系の研究者らが研究や実践的な取り組みの成果を報告した。それらの報告をもとに大学院生を中心に問題解決型学習を実施した。



左) 海洋生態系研究者による成果報告



右) 問題解決型学習の様子

19日は東南アジア諸国ならびにその周辺国においてウミガメ類、海産哺乳動物、希少魚類などの保護および陸域野生動物の生態研究を行っている政府関係研究機関、関係大学ならびにNGOの研究者がそれぞれの国における絶滅危惧種の現状と保護の実態レビューとお互いの協力関係を構築するための議論を行った。本シンポジウムではフィリピン、タイ、日本、インドネシア、ルクセンブルグ、フランスなどの約40名の研究者によって、合計29件の発表が行われた。現在、これらの論文のプロシーディングスを取りまとめているところである。



左) 院生による研究成果発表



右) シンポジウム会場の様子